

small music

Julius Memorial
1939-2011



light-green music

Symposium

2012.4.7 sat 13:00 - 16:30

Installation

2012.4.3 tue - 4.15 sun

small music

Julius Memorial 1939-2011

スモール・ミュージック - ユリウス追悼展

Symposium

2012.4.7 sat 13:00 - 16:30

Installation

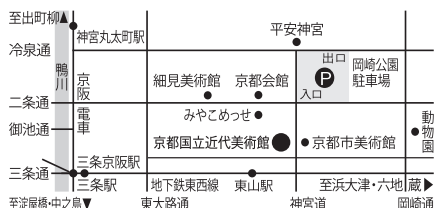
2012.4.3 tue - 4.15 sun

シンポジウム「small music - ロルフ・ユリウスのアートの世界」【通訳あり】

- 日時：2012年4月7日(土) 13:00 - 16:30
- 場所：京都国立近代美術館 1階講堂
- 入場：無料
- コーディネーター：中川真(音楽学者)
- パネリスト：鈴木昭男(サウンドアーティスト)、川崎義博(同)、藤島寛(ディレクター)、マイヤ・ユリウス(キュレーター)
- 通訳：海老根剛
- 主催：ユリウスメモリアル実行委員会
- 共催：京都国立近代美術館
- 協力：アートスペース虹、大阪市立大学都市研究プラザ、京都国際現代音楽フォーラム

*マイヤ・ユリウスによる、ロルフ・ユリウスの作品の全貌解説のあと、ユリウスのアートに関して、多角的に論じる。

京都国立近代美術館



〒606-8344
京都市左京区岡崎円勝寺町
Tel: 075-761-4111
http://www.momak.go.jp/

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 岩倉行「京都美術館美術館前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行) 銀閣寺行「京都美術館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番岩倉行「京都美術館美術館前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪祇園四条駅から市バス46番 平安神宮行「京都美術館美術館前」下車すぐ
- 市バス他系統「東山二条」または「京都美術館美術館前」下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩約10分

インスタレーション 'small music'

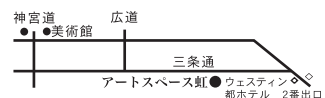
(スモール・ミュージック - ユリウス追悼展)

- 日時：2012年4月3日(火) - 4月15日(日)
- 場所：アートスペース虹
- 出品作家：Rolf Julius、鈴木昭男、かわさきよしひろ、桑原敏郎
- キュレーション：マイヤ・ユリウス
- 主催：ユリウスメモリアル実行委員会

*ユリウスの作品、ドローイングの展示とともに、ユリウスにゆかりのある鈴木昭男、かわさきよしひろ、桑原敏郎の作品を同時に展示。

アートスペース虹

〒605-0041 京都市東山区三條通神宮道東入
3丁目東町247(ウエスティン都ホテル西隣)
Tel: 075-761-9238
http://www.art-space-niji.com/



● 地下鉄東西線「東山駅」あるいは「阪上駅」下車徒歩5分

2011年1月、ドイツを代表するサウンドアーティストであるロルフ・ユリウスが享年71歳で逝去しました。写真家としてアートシーンに登場したユリウスは1970年代後半より、音の表現へと移行していき、'small music'というコンセプトのもと、微小音の繊細な変化を特色とする独自のアートの世界を築いてきました。押しつけがましくなく、耳をそばだてることを求める彼のアートは、日本にも多くのファンを生み、2010年夏の瀬戸内国際芸術祭にも参加、健在を示していましたが、2011年に入ってガンが悪化、帰らぬ人となりました。本企画では、ユリウスを偲び、彼のサウンドインスタレーションをマイヤ・ユリウスの監修のもとで再現するとともに、彼のアートの特色について、アーティストやキュレーター、音楽学者などによって語り合うシンポジウムを開催します。20世紀後半に出現したサウンドアートは、欧米や日本、オーストラリアなどで発展してきましたが、そのなかでもユリウスは傑出したアーティストであったといえます。生前に、こうした形でユリウスのアートについて集中的に議論する機会はありませんでした。ユリウスのアートは何だったのか、今後のアートに何を残そうとしているのか、20世紀から21世紀にかけてのアートを展望したいと思います。

ロルフ・ユリウス Rolf Julius (1939 - 2011)

1939年Wilhelmshavenに生まれる。プレーメン、ベルリンの芸術大学(美術科)を卒業のち、映像作家(写真)として1967年にベルリンのGalerie Siegmundshofにてデビュー、以後、堤防や身体ラインに焦点をあてた作品をドイツ国内にて発表する。

1970年代より音響を写真のインスタレーションに取り込み、徐々にサウンド表現へと移行する。簡単なブザーなどを用いた微細音を中心とする表現を'small music'と呼び、「聴くこと」、「音と人との親密な関係」などの追究をライフワークとして、実験的な作品をつくり続けた。国の内外においてパフォーマンス、インスタレーションを精力的に行い、ドイツを代表するサウンドアーティストとなった。パリ・ビエンナーレ(1985)、リンツ・アルスエレクトロニカ(1987)、カッセル・ドクメンタ(1987)、モントリオール・アークスティカイターナショナル(1990)、ドナウエッセンゲン国際現代音楽祭(1999, 2003)、ベルリン・ゾンアンビエンテ(2006)などの国際的フェスティバルから招聘される。日本においても「ノイズレス 鈴木昭男 + ロルフ・ユリウス」(京都国立近代美術館 2007)、瀬戸内国際現代芸術祭(2010)などで作品を発表し、ユリウスファンも多い。2011年にベルリンにて歿。

マイヤ・ユリウス Maïja Julius

マールブルク、フランクフルト、バルセロナ等で美術史学や民族学を学んだ後、ベルリン工科大学にて修士の学位を得る。2003年以降、フリーランスのキュレーター、カタログ編集者などとして世界各地で働く。主なキュレーションに「I l l a d o d e s s i l e n c i o - N e b e n d e r S t i l l e」(バルセロナ)、「Inner Spaces」(ドルトムント)、「Peripherie 3000 - strategische Plattform für vernetzte Zentren」(ザグレブ等)がある。カタログ等の執筆多数。父ロルフ・ユリウスの作品監修を行う。

鈴木昭男(すずきあきお)

1960年代より音の自修イベントを開始。創作楽器 ANALAPOS ('70)や、コンセプトual・サウンドパフォーマンス、インスタレーション、そして音のプロジェクト「日向ぼっこの空間」(88)、「点音(oto-date)」('96~)を展開。ロルフ・ユリウスとはドイツ・カッセルの「ドクメンタ8」(87)、ドナウエッセンゲン現代音楽祭('97)、そして「ノイズレス 鈴木昭男+ロルフ・ユリウス」展(京都国立近代美術館'07)等とともに作品を発表。

かわさきよしひろ

フィールドレコーダーの草分け的存在。1990年St. GIGAの開局に伴い世界各地をロケレ番組制作、CD「バリ島」「トリニダードパゴ」など13作品。1997年に世界で初めてのリアルタイムで世界の音が聞こえるサイト SoundExplorer を制作、現在 SoundBum、Aquascape などがある。世界の音の作品は、日本科学未来館、東京都写真美術館、金沢21世紀美術館などで展示された。プラネタリアム作品として詩人谷川俊太郎とのコラボレーション「夜はやさしい」などがある。

桑原敏郎(くわばらとしお)

フォトグラファー。1949年、愛媛県生まれ。1975年、東京総合写真専門学校卒。1976年、Photo-gallery PRISM創設に参画。以後、ギャラリー展示による作品発表を中心に活動。同時期よりジャズ、ロック、フリーミュージックなど音楽シーンの撮影にも関わる。1980年代後半、小杉武久を通じ、ロルフ・ユリウスと親交を持つ。1990年、東京・ギャラリー伝にてDRAWING & MUSIC Performance展を企画。以降、2008年まで同ギャラリーにてRolf Julius 'Table Music'を企画。

藤島寛(ふじしまゆたか)

専門は性格心理学。80年代よりジョン・ケージ(米)など実験的音楽に関心をもち、主要な企画制作に、「点音II」(1998、ストラスブール)、「ノイズレス」展(2007、京都国立近代美術館)がある。音楽や美術の論考として、「可視的な音楽」、「ART RULES」(『視る』2001、2008)、「鈴木昭男展 点音 ki-date」カタログ・テキスト(三岸節子記念美術館、2008)などがある。

中川真(なかがわしん)

東南アジアの音楽の実践を行う傍ら、サウンドスケープ、サウンドアートの研究を行い、「平安京 音の宇宙」(平凡社)、「音は風にのって」(平凡社)、ユリウスと鈴木昭男を中心に論じた「サウンドアートのトボス」(昭和堂)を刊行。サントリー学芸賞、京都音楽賞などを受賞。近年は小説「サワサワ」(求龍堂)のほか、「これからのアートマネジメント」(フィルムアート社)を上梓。本年6月に「アートの力」(和泉書院)を刊行予定。大阪市立大学大学院教授。